

2025年度事業報告

I 公益目的事業及び収益事業の実施状況

1. 公益目的事業

(1) 国際相互理解のための体験活動及び普及啓発事業

■国際理解講座 Global Understanding 沖縄フィールドワーク

内容：沖縄戦の歴史と米軍基地問題について各地を訪れて学ぶ体験型学習

期間：5月3日～6日

受講者・参加者数：学生11名(うち国際学舎9名・韓国、アメリカ、イギリス、スウェーデン、ベルギー)

■日中韓大学生相互交流ワークショップ 2025 in Korea

内容：昨年度の京都開催に続き、今年度は韓国の国立ハンバツ大学 日本語学部を拠点として、日本・中国・韓国から集まった大学生による国際交流プログラムを実施した。相互交流ワークショップやフィールドワーク、パネルディスカッションなど多彩なプログラムを通して、それぞれが新たな学びを深める機会となった。参加学生たちは対話や共同活動を重ねる中で、異なる文化や価値観に触れながら相互理解を深め、国境を越えたつながりを築く充実した交流の場となった。

期間：8月12日～19日

開催場所：韓国・大田市&ソウル市

参加者数：29名(日本から13名、中国から4名、韓国から12名)

■年中行事を楽しむ会 Feel Japan

留学生が日本の文化や風習を体験し、国際理解を促進するプログラム

(歌舞伎鑑賞)

6月20日に歌舞伎鑑賞を実施し、12名参加した。RAが引率を担当し、日本語ボランティアの会の方々も参加しながら、留学生たちとともに日本の伝統芸能に触れる機会となった。参加者の多くにとって歌舞伎鑑賞は初めての体験であり、華やかな舞台演出や独特の所作に興味深く見入る様子が見られた。専門用語も多かったが、英語による解説が用意されていたことで理解を深めながら鑑賞を楽しむことができ、日本文化への関心をさらに高める貴重な機会となった。

(七夕イベント)

七夕にあわせて、3号館1階ロビーに笹と短冊を設置し、寮生が自由に参加できる七夕イベントを実施した。留学生たちは笹飾りを楽しみながら、思い思いの願い事を短冊に書き、積極的に参加し

ていた。また、今年度も日本語ボランティアの会の参加者にも多くの短冊を書いていただき、交流の輪が広がる機会となった。短冊には、大学生活や就職活動の成功を願うものや、平穏な日常への願いなど、それぞれの思いが込められており、日本の季節文化に触れながら温かな交流が生まれていた。

(ひな祭り)

5号館ロビーにひな祭りの展示を行った

■企画展 祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol.9

故齋藤治子氏のご遺族より寄贈された作品のなかからイエスの生涯の各場面を表した作品を展示した

会場：スコットホールギャラリー

期間：12月18日～12月23日

来場者：50名

(2)国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業

■日本語ボランティアの会

内容：2025年度も対面クラスとオンラインクラスを並行して実施した。予約制による事前マッチングの運営も定着し、学習者とボランティア双方にとって安定した活動環境が整いつつある。今年度はボランティア募集にも積極的に取り組み、新規入会者も増加している一方で、学習者のニーズに対しては依然としてボランティア人数が十分とはいえない状況が続いている。そのような中でも、ボランティア一人ひとりが熱心に学習者に寄り添いながら活動を続けており、日本語を必要とする人々にとって大切な居場所となっている。

活動日：水曜日2クラス、金曜日1クラス

活動期間：2025年3月19日～2026年3月13日

参加人数：合計81日(水曜日40日、金曜日41日)の授業日があった
のべ参加人数はボランティア881名、学習者2114名

活動方式：対面授業とオンライン授業を並行

■野宿者支援給食活動への支援

学生が生活困窮者支援の現場に触れ、社会課題を自らの問題として捉える機会となるよう、関係団体との連携調整、場所の提供等を通じて野宿者支援活動を支援している。活動への参加を通じて、他者を尊重する姿勢や社会参画意識を育み、市民としての資質(シチズンシップ)を高めることを期待している。

(3)国際相互理解のための語学講座及びその他講座事業

■多文化共生について考えるワークショップー地域日本語教室で活かせるアクティビティとともにー

多文化共生についての理論知識を学びそれについて参加者間でディスカッションしながら、多文化共生社会の創生に資するためにどのような支援ができるのか、地域日本語教室活動を例に模索した
期間：5月25日～7月13日全4回、対面形式

受講者数：7名

講師：福村真紀子(茨城大学大学院助教、親子サークル「多文化ひろば あいあい」代表)

■Let's 朗読

朗読の基本や声の出し方などを学び、元気を養い、詩や物語の世界で感性を磨く。全8回全て対面クラスで実施した。受講生も朗読の発表会などに向けて練習に励み、目標に向かって着実に実力をつけている

期間：通年で前期・後期各8回開催

受講者数：前期7名、後期6名

講師：飯島晶子(朗読家「VoiceK」主宰)

■パイプオルガン・アカデミー

期間：4月1日～3月31日までに80レッスンと第二回オルガンアカデミー発表会レッスンを実施

受講生：11名

講師：水野均(桐朋学園大学講師、早稲田教会オルガニスト)

協力：早稲田教会

■STUDY HALL

STUDY HALL vol.44 記録映画〈戦後在日五〇年史 在日〉から30年 上映会&トーク

～在日女性・クィアが語る、あれから変わったこと・変わらなかったこと・そしてこれから変えたいこと～

1945年から80年の節目にちなんで、在日コリアンの通史を追った呉徳洙(おどくす)監督のドキュメンタリー映画〈戦後在日五〇年史 在日〉(歴史編)を上映した。この映画が公開された当時から約30年経ったが、それから在日コリアンの状況がどう変わり、変わらなかったのか、ゲストに在日本朝鮮人人権協会より朴金優綺さんをお招きし、在日女性やクィアの視点から「日本を生きること」について、そしてこれからの百年史に向けてのアフタートークを行った。

期間：11月8日 17:30～21:00

参加者：107名

登壇者：朴金優綺さん(在日本朝鮮人人権協会)

■オンライン・聖書講座ー『LGBTQ+と聖書 みんなで考えてみよう！』（共催）

講師の著作『LGBTQ 聖書はそう言っているのか？』を元に、聖書は性別二元論や異性愛主義の枠に当てはまらない人々を排除しているのか、聖書の文脈、古代の歴史的事情、そしてイエスの福音に基づいて掘り下げて検討し、読み方を紹介する。

期 間：通年毎月第2火曜日全10回

受講者数：17名

講師：藤本満（インマヌエル高津キリスト教会牧師）

共催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

■山口スタディツアー

『沿岸からのぞむ「在日の海」～下関・宇部・仙崎を巡る2泊3日の旅～』というタイトルのスタディツアーを開催した。一般募集をかけ、関東や関西からの参加者が山口に集った。

今回の旅では、実際に現地に行った時に歴史状況の想像を膨らませるため、『密航のち洗濯-ときどき作家』と『在日朝鮮人作家 尹紫遠未刊行作品選集』の2冊の本を参考書籍とした。数百万人にもものぼる朝鮮人たちが日本の植民地時代にどのようにこの海を渡り、犠牲になっていったのか、現地で活動する人々の話も伺いながら沿岸からその海を眺め考えることがツアーの趣旨だった。

期間：2026年3月13日～15日

参加者：15名

（4）学寮運営事業（友愛学舎・ゲストハウス）

■友愛学舎

舎生数：2025年度は4年生4名、3年生3名、2年生3名の在寮生に加え、新1年生2名を迎えて計12名でスタートした

活動：朝の会 学期期間中の月曜日から金曜日の基本7時から7時30分まで。聖書研究・コリントの信徒への手紙1とヨナ書及び学生発表が行われた。毎月第1金曜日は信愛学舎と合同礼拝を行った

舎生会 毎月1回開催、友愛活動・生活について話し合った

年間活動 4月の活動開始に向け、新入生を含めたオリエンテーションキャンプを鎌倉にて実施し、寮生活の意義や奉仕園や友愛学舎の歴史を学んだ。

協力：古賀博牧師、中澤重光宣教師に聖書研究のほか寮運営全般のアドバイザーとして奉仕いただいた。

■キリスト教学生寮懇談会

都内及び近郊のキリスト教主義による超教派の学生寮のネットワーク。友愛学舎を含む10学寮（信愛学舎、山手学舎、山上学寮、東京ティラナスホール、登戸学寮、春風学寮、東大YMCA寮、一

橋YMC A寮、同志会学生寮)の担当者による会合は開催できなかったが、見学や入寮希望の問い合わせ等で連携を取った。日本留学生宿舍財団法人協議会(留団協)の会合に職員が参加した。

■ゲストハウス

1号館2階201～207号室の計7部屋を運営。25年度はのべ7名が在寮した。新たに3名が入寮し、3名が退寮した。現在2室の空きがある。

(5)早稲田大学との協力による学寮運営事業(国際友愛学舎)

■国際学舎

早稲田大学の外国人留学生・研究員寮。レジデントアシスタント(RA)のRAコミュニティールーム滞在は日時を定めず事前告知制に変更のうえ再開された。3寮(早大寮・西早稲田寮・奉仕園)合同ミーティングを定例で持ち、情報共有に努めるとともに業務改善のための意見交換を行った。研究員19室に対し65名、染谷会館8室に対し37名分の滞在実績となった。

2025年度国・地域別居住者数(合計239名、36の国と地域、RA含む)

アメリカ	33	中国	27	イギリス	21	韓国	19
ドイツ	18	日本	17	台湾	15	フランス	8
イタリア	6	カナダ	6	シンガポール	6	スウェーデン	6
オーストラリア	4	スペイン	4	タイ	4	オランダ	3
香港	3	デンマーク	3	ルーマニア	3	フィリピン	3
アイルランド	2	ベルギー	2	イスラエル	1	インド	1
インドネシア	1	オーストリア	1	スイス	1	チェコ	1
トルコ	1	ノルウェー	1	パプアニューギニア	1	ハンガリー	1
フィンランド	1	ブルガリア	1	ベトナム	1	ポーランド	1
マレーシア	1	ルクセンブルク	1				

■ウェルカムパーティー

4月5日にRA主催によるウェルカムイベントを開催した。RAが事前準備から当日の進行まで丁寧に企画・運営を行い、ゲームや交流アクティビティを通して参加者同士が自然に打ち解ける時間となった。その後は軽食を囲みながら会話を楽しみ、寮生同士が親睦を深める機会となった。

また、10月3日には友愛学舎生主催によるウェルカムパーティーをリバティホールにて開催した。自己紹介やレクリエーションを通して交流を深め、会場は終始和やかな雰囲気に包まれた。友愛学舎生が心を込めて準備した企画により、多くの笑顔が見られる交流の場となった。

どちらのイベントも70～80名ほどが参加し、来日したばかりの留学生が安心して新しい生活をスタートできるよう支えるとともに、寮生同士のつながりを育む大切な機会となった。

■奉仕園クリスマス会

12月13日に開催し、寮生を中心に約60名が参加して、心温まるひとときを過ごした。まず、スコットホールにて「しずかなひととき」が灯され、その後はRAの司会のもと交換留学生によるピアノ演奏や歌の披露が行われた。留学生のピアノ伴奏に合わせて参加者全員でクリスマスキャロルを歌い、その歌声はスコットホール講堂いっぱいに美しく響き渡った。後半には、友愛学舎生による友愛劇など内容豊かなプログラムが続き、最後には多くの参加者がステージに上がって歌や踊りを楽しんだ。その後は3号館ロビーに場所を移し、恒例のピザパーティーを実施し、交流を深めた。

■お弁当イベントー【Chill out with Obento ココロもカラダも癒されるHoshienランチ】

5月14日と11月13日の計2回、交換留学生、RA、友愛学舎生、訪問学舎生、職員が参加し、交流イベントを実施した。イベントでは、早稲田奉仕園が長年お世話になっている早稲田の老舗「たかはし」による心のこもった二重弁当を提供した。留学生の中には日本の弁当文化に初めて触れる参加者も多く、丁寧に盛り付けられた多彩なおかずを楽しみながら、日本ならではの食文化の魅力を感じている様子がうかがえた。食事を囲みながら自然な交流が生まれ、奉仕園で生活する人々が互いに親睦を深める貴重な機会となった。

■留学生スキー研修@万座温泉

新宿からの直行バスが運行中止となったため実施を見送った。

(6)財務規律関係項目

■公益目的事業会計収支

一般正味財産経常収益	182,026,066 円
経常費用	173,927,252 円
経常収支差額	8,098,814 円
収益事業からの利益振替額	19,512,430 円
当期剰余金発生額	27,611,244 円

黒字は、借入金返済の費用計上1,630万と学生寮修繕改修資金への繰り入れ300万円、残額は5年間の中期的均衡をはかる。

■公益目的事業費割合

70%となり適正(50%以上)である。

■使途不特定財産額

適合の範囲内(過去5年度の公益目的事業費の平均値以内)である。

2. 収益事業

(1) 駐車場及び貸事務所等の賃貸並びに管理受託事業

■不動産賃貸事業

月極駐車場及び事務所の賃貸、宣教師館・牧師館、教会への施設貸出し。通年満車の契約をいただいている。

■早大染谷会館管理

早稲田大学染谷国際会館の施設管理及び入居者の各種対応を実施

(2) 会議施設及びホール施設の貸与事業

■施設の貸与(会議室・ホール・ギャラリー)

利用内容は、会議室・ホールは学習会、語学教室、音楽練習やコンサート、講演会など多岐に渡っている。スチールは半数以上が婚礼前撮り業者となり、フォトウェディングの需要が顕著である。安定的にファッション雑誌・カタログ利用が多かった。

動画のうち MV 撮影が 4 本、TBS 情熱大陸対談 1 本、NHKBS テレビ 1 本

撮影利用件数実績

	スチール	動画	合計
2025 年度	63	8	71
2024 年度	87	21	108
2023 年度	107	6	113
2022 年度	120	14	134
2021 年度	124	21	145
2020 年度	49	30	79
2019 年度	33	14	47

■施設・備品

スコットホール講堂の音響機器設備更新をおこなった。具体的にはスピーカー、ワイヤレスマイク、アンプを更新した。この設備更新にあたって東京都まちづくりセンターから 884,000 円の助成をいただいた。

■早稲田スコットホールギャラリー

絵画展だけでなく様々なジャンルの展示利用やリピーター利用も増加した

2025 年 3 月 29 日(土)～4 月 4 日(金) サイトウヤスヒロ展

2025 年 6 月 27 日(金)～7 月 7 日(月) キリスト教美術展

2025 年 10 月 22 日(水)～10 月 26 日(日) Contemporary Japanese Violin Makers

2025 年 10 月 31 日(金)～11 月 4 日(火) よねあり展 in 東京・早稲田 透明水彩と色鉛筆の世界

2025 年 11 月 12 日(水)～11 月 17 日(月) 昭和 100 年 心のふるさと 草木染め・手織り

澤田倭文子展

2025 年 12 月 3 日(水)～12 月 7 日(日) 『ようやくまわりがみえてきた』

2025 年 12 月 12 日(金)～12 月 14 日(日) studio AL(株式会社ファム)

2025 年 12 月 18 日(木)～12 月 23 日(火) 渡辺禎雄型染版画展 Vol. 9～齋藤治子コレクション～

2026 年 2 月 16 日(月)～2 月 27 日(金) エフゲニー・フェルドマン写真展「ナワリヌイ-This is Navalny」

■セミナープログラム(協賛を含む)の開催

(企画展)

祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol. 9

故齋藤治子氏のご遺族より寄贈された作品のなかからイエスの生涯の各場面を表した作品を展示した。

会場：スコットホールギャラリー

期間：12 月 18 日-12 月 23 日

来場者：50 名

(スコットホール写真セミナー)

期間：2025 年 11 月 6 日(木)

参加者：10 名

写真家の北田英治氏による建築写真の講義と実地撮影を実施した。撮影では「何を撮るかを意識した構図」や遠近双方の視点を学び、講評ではテーマ設定や垂直性などについてアドバイスが行われた。参加者は多様な視点による表現や写真選定の重要性を実感し、スコットホールの新たな魅力発見と学習効果の高い機会となった。

(薮野健講演会「今井兼次とスコットホール」)

期間：2025 年 10 月 16 日

参加者：のべ 100 名

早稲田大学文化企画課との初共催により「早稲田芸術文化週間」の一環として、講演会「今井兼次とスコットホール」を開催し、100 名超が来場した。

基調講演ではスコットホールの建築的魅力が解説され、続く薮野健氏の講演では今井兼次の人物像や早稲田の歴史的景観が紹介された。講演では戦災を免れた背景や設計思想、建築が持つ文化的・歴史的価値について理解が深められた。

参加者からは「建築と歴史への関心が高まり、スコットホールの価値を再認識する機会となった」との感想があった。

(チャリティ古本市)

古本市は 2025 年 2 月のナワリヌイ写真展の企画団体 AN 写真展実行委員会に 18,023 円の寄付をおこなった。

(スコットホール公開日・ガイドツアー)

5 月と 10 月の年 2 回ガイド付きツアーを開催。5 月の参加人数は 70 名、10 月は 80 名、今年度より「見学のみ」を終了した。

期日：春季 5 月 29 日、秋季 10 月 30 日

来場者数：抽選、事前予約制・満席、延べ人数 150 名

■所蔵作品の貸出

キリスト教美術の振興・発展および作品を通じてのキリスト教思想・文化への理解促進を目的として、渡辺禎雄型染版画を中心に所蔵作品の貸出事業を 2024 年 5 月に開始した。11 月に公益財団法人ウェスレー財団に 20 点を貸出した

3. 法人総務

■広報

年次報告書(2025 年 8 月 10 日)、奉仕園通信は 87 号(2025 年 3 月 15 日発行)、ホームページの更新及び「奉仕園スタッフのブログ」の掲載を随時おこなった

■行政庁(内閣府)諸届

2024 年度事業報告等の提出(6 月 27 日)

評議員変更の届出(9 月 9 日)

2025 年度事業計画書等の提出(3 月 28 日)

■登記

二子石優評議員、長尾有起評議員就任登記(8 月 13 日)

■早稲田正午礼拝

近隣教会やキリスト教諸団体の職員等毎回 30 から 40 名の参加がある。近隣団体関係者にメッセージを依頼している

Ⅱ 法人の状況に関する重要な事項

■役員

理 事：理事長(代表理事) 内田勝一

専務理事 阿部千秋

常任理事 小川忠、古賀博、吉原洋

理事 篠原初枝、土屋忍、名取智子、土方恭子、西川嗣夫

評議員：天田信義、伊藤圭之、大江浩、岡崎菜佳子、小川有閑、尾内一美、杉尾麻帆、関伸子、
友金孝夫、原真由美、李明生、長尾有起、二子石優

監 事：大橋正明、山崎龍一

退 任：相賀昇理事、稲垣隆一理事、土方恭子評議員(2025年6月26日付)

新 任：土方恭子理事、長尾有起評議員、二子石優評議員(2025年6月26日付)

■会計監査

関口英二郎公認会計士による監査を受けている。

■賛助会員

88名が加入、賛助会費535,000円を受領した。

■職員

正職員10名、限定正職員2名、嘱託職員1名、パート職員5名

■会議

(評議員会)

定時評議員会(6月26日)

第1号議案 2024年度事業報告及び計算書類承認の件

第2号議案 役員等人事の件

第3号議案 専務理事報酬の件

(理事会)

第1回定時理事会(6月5日)

第1号議案 2024年度事業報告及び計算書類承認の件

第2号議案 役員等人事の件

第3号議案 スコットホール保存・活用事業及び募金の件

第4号議案 ベニンホフ記念館(5号館)1階一部賃貸の件

第5号議案 専務理事報酬の件

第6号議案 2025年度定時評議員会開催の件

第1回臨時理事会(7月30日)

第1号議案 理事長選定の件

第2号議案 専務理事選定の件

第3号議案 常任理事選定の件

第2回臨時理事会(9月25日)

第1号議案 早稲田奉仕園の運営の現状と今後の課題について

第2号議案 賃金規程及び就業規則一部改定の件

第2回定時理事会(2026年3月3日)

第1号議案 2026年度事業計画及び予算に関する件

第2号議案 役員等人事に関する件

(常任理事会)

第1回常任理事会(5月22日)

第2回常任理事会(7月8日)

第3回常任理事会(9月11日)

第4回常任理事会(10月7日)

第5回常任理事会(11月17日)

第6回常任理事会(2月12日)

(ワーキングチーム)

第1回合同(11月11日)、第2回Aチーム(11月21日)、第3回Aチーム(12月2日)、

第4回Bチーム(12月22日)、第5回Aチーム(12月23日)、

第6回Aチーム(2026年1月13日)、第7回合同(1月21日)、第8回合同(2月17日)

(経営企画会議)

ワーキングチームの提言をもとに発足、事務局機能の強化をはかるとともに、現場サイドから中長期的な経営課題について検討し、その論点を整理する。2026年1月より原則月1回行う

(職員会)

原則毎月第1火曜日に行う

(マネージャー会議)

原則毎月1回行う

■寄附

スコットホール保存活用募金 2,819,000 円、一般募金 218,000 円、賛助会費 535,000 円ほか計 3,640,023 円を受領した。

Ⅲ 法人の体制の整備・運用状況

■ワーキングチーム

2025 年度事業活動の実施において、ガバナンス上の問題点が明らかとなる事案が発生した。これを組織全体としての課題としてとらえ、ワーキングチームを立ち上げて当事案への対応の検証、ガバナンス及びリスク管理の強化、経営上の問題点の洗い出しなどを行うこととした。当年度は計 8 回の会議を行った。2026 年度中に答申をまとめる予定である。

■監査

監事監査：5 月 15 日(決算)、12 月 22 日(期中)

関口英二郎公認会計士外部監査：4 月 1 日(実査)、5 月 15 日・16 日(決算)、11 月 14 日(期中)

■リスク管理

近隣 3 者合同避難訓練の実施 11 月 4 日

交換留学生寮避難訓練の実施：早稲田大学寮合同にて 4 月 11 日、8 月 28 日、9 月 19 日

鍵の取り扱いに関する通知を出し、管理体制の強化をはかった

Ⅳ 法人の運営体制の充実をはかるための取組

■役員等

外部理事に弁護士資格を持つ者を新たに選任した。

■ガバナンス強化

ワーキングチームの提言をもとに経営企画会議を新たに発足、事務局機能の強化をはかるとともに、現場サイドから中長期的な経営課題について検討し、その論点を整理する。2026 年 1 月より原則月 1 回会議を行っている。

■事務局

- ・研修：マネージャー1 名が経営研修を受講、職員 1 名が英語研修を受講
- ・IT 化・DX 推進：各部署の事務作業のデジタル化を継続している。勤怠管理と AI の導入について検討し準備を進めている。
- ・職場環境の整備：育児介護休業規程を改定し、子育てと就業の両立の促進をはかった。
- ・事業評価の改善：事業計画策定にあたり、「期待される効果」を記述し、事業実施後の評価の指標とすることを導入した。

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。